

令和2年度第1回東浦町総合教育会議録

開催日 令和3年1月21日(木)

場所 東浦町役場 食堂

出席構成員の氏名

町長	神谷明彦	教育長	恒川 渉
職務代理者	野田雅代	委員	杉浦政代
委員	水野善久	委員	浅田謙司

出席職員の氏名

企画政策部長	教育部長	企画政策課長	学校教育課長
生涯学習課長	図書館長	スポーツ課長	学校給食センター所長
主幹兼指導主事	統括課長補佐兼指導主事	スポーツ課統括課長補佐	学校教育課長補佐兼係長
学校教育課主査			

傍聴者 0名

会議

開会 午前9時

(教育部長) ただいまから、令和2年度第1回東浦町総合教育会議を始めます。

あいさつ

(町長) 本日はお集まりいただきありがとうございます。

現在のコロナ禍の中で、マスクの着用が常態化することに関して、免疫力の低下や、口元の表情が見えないことによって社会性が培われないのではないかという懸念があるようです。

今回は、統計的なデータも示しながら、みんなでこの場で考えていこうという問題制定がされており、よい傾向だと感じました。今回の「いじめ・不登校児童生徒の現状と課題について」も、今どのような状況にあるのかを把握し、解決につながるような道順が得られたらさらに良いと思いますので、結果を見ながら感じたことをご発言いただければ幸いです。よろしく願いいたします。

(教 育 長) これから議題の中でいじめ・不登校のデータが示されますが、東浦町としてどうしていくか、東浦町の現状をしっかりとつかまなければなりません。今回は問題を解決していくための足掛かりとなる会議にしたいと考えております。いじめ・不登校について、全国では右肩上がりになっておりますが、東浦町ではそうではありませんので、その理由を考えていかなければなりません。結びつけることが正しいのか分かりませんが、2、3年前から、ネットゲームで不特定多数の子どもたちがつながりをもつようになりました。それに関連するような不登校が多くなっています。なかなか運動に親しめないという状況もあつたり、就寝時間が遅くなることで睡眠時間が十分でなかったり、子どもたちの実態というものは、学校だけではなかなか把握しづらく、いろいろな要素を見ていく必要があると感じます。本日いただいたご意見の中で、教育委員会として早急に取り組むべきことがあれば、きちんと対応していかなければならないと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

いじめ・不登校児童生徒の現状と課題について

(町 長) いじめ・不登校児童生徒の現状と課題について、事務局より説明をお願いいたします。

(統括課長補佐兼指導主事) いじめ・不登校児童生徒の現状と課題について、説明。

(町 長) ご意見やご質問等はございますか。

(教 育 委 員) 学校現場と教育委員会で、いじめ・不登校について真剣に取り組んでおられるというのが伝わりました。まず、具体的ないじめ・不登校の予防事例を教えてください。また、不登校の復帰に対する取り組みを教えてください。

(事 務 局) いじめ予防については、年度初めに保護者に対して学校ごとのいじめ対策基本方針に則った取り組みやいじめの定義を説明しています。また、児童生徒に対しては、道徳の授業でいじめの題材を盛り込んでいます。道徳の授業では、いじめ以外の題材でも、命の大切さや共生・協調して生きていくことの大切さを学べるよう指導していくことが予防につながると考えています。

人権週間には校長から児童生徒へ相手の気持ちを考えることの大切さを発信し、生徒指導担当者会議では各校の現状や課題を情報共有しながら、未然防止に努めています。また、情報モラル教育を行い、外部講師から事例を紹介してもらい、SNSの適切な使用方法について指導をしています。

不登校の予防については、機会を逃さず、担任を中心に職員が

情報を共有し、一丸となって当たっていくことしかないと思っています。

不登校の復帰については、担任がその児童生徒を放置しないことがポイントだと思います。事例としては、他の子どもたちが下校後に登校させ、勉強を教えたり、話をしたりという機会をつくっているという報告をいくつかの学校から受けています。これが直接復帰につながっていると断言はできませんが、一人ではないよというメッセージを地道に発信することで、良い方向につながるのではないかと考えています。

(教 育 委 員) 不登校になった児童生徒が、どの程度ふれあい教室(適応指導教室)に通っているのか、また登校することができるようになってきているのかと、不登校の原因ともなっている家庭の問題について、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)とのつながりについて教えてください。

(事 務 局) ふれあい教室は現在13名の児童生徒が所属しています。ふれあい教室に登校した時には、担任が頻繁にふれあい教室に足を運んでいます。また、令和元年度ふれあい教室に所属していた小学生4名、中学生17名のうち、復帰できたのは、小学生1名、中学生1名です。平成30年度は、小学生2名、中学生15名のうち、復帰できたのは中学生1名でした。進路についてですが、中学校3年生の不登校だった生徒のうち、令和元年度は、全日制の高校に2名、定時制に2名、通信制に1名、平成30年度は、全日制の高校に1名、定時制に5名、通信制に3名進学しています。

SSWについては、子どもと親の相談員(元学校長・元保育園長)がその役割を担っていると思います。保護者と話をしたり、学校に出向いて児童生徒や先生と話をしたりして、家庭だけで悩むことを少しでも減らすようにしています。

(教 育 委 員) 不登校の原因を見ると、いじめによるものは0名となっていて、不安や無気力によるものが多くなっています。不安や無気力が原因の不登校に対して、どのようなケアをされていますか。

(事 務 局) 各学校にはスクールカウンセラーの派遣や、心の健康相談員が常駐するなどして、1人で悩むことのないよう環境を整備しています。担任を中心に、そこにつながるよう働きかけていくことが大切になります。

(教 育 委 員) 担任が不登校の児童生徒に対して、一生懸命接点をもとうとしている姿は、他の児童生徒にも伝わっていると感じます。授業の中だけでなく、先生の姿勢というものが、道徳教育の一環になっ

ているのではないかと思います、先生方には大変感謝しています。

(事務局) 情報があれば教えていただきたいことがあります。先ほど教育長が述べたネットゲームで、「フォートナイト」というゲームが小学生の間で流行しています。小学生の不登校が増えたタイミングでできるようになったゲームなので、もしかしたら、生活の乱れ等に関わっている要因なのではないかと思います。ゲームでトラブルになったという話を聞いたことはありませんか。

(教育委員) どのようなゲームですか。

(事務局) 不特定多数のプレイヤーがネット上の同じフィールドで殺し合うゲームです。

(町長) 何か特別に流行る仕掛けがあるのでしょうか。以前リモート会議で、「これからはフォートナイトのようなビジネスモデルを組まなければならない。」という話を聞きました。何か人を惹きつけられる要素がたくさんあるのだそうです。

(教育委員) いじめの原因にパソコン、携帯電話というのがあり、中学校では学校に持ち込んでも良いとされています。管理も含めて、学校が子どもの知識に負けないようにしなければなりません。

感想になりますが、教育委員会がいじめ・不登校に着目しているということは、学校現場にも伝わると思いますし、掘り起しにもつながると思います。

学校にタブレットが導入され、不登校児童生徒が遠隔授業によって家庭でマイペースに学習を行うことも可能になってくるため、今後の課題となるのではないかと感じました。

(教育委員) 不登校の児童生徒の居場所づくりについて、外との接点をもつということを地域全体で考えていかなければならないと感じました。

(町長) 不登校生徒の追跡はどのくらい可能なのでしょうか。数字としては小学校から中学校にかけて増えており、おそらくその後減ることは考えにくいとすると、町内にも少なからずそのまま引きこもり続けている人がいると考えられるでしょう。学校教育だけでなく、町行政全体として考えなければならないことですが、どのくらい把握していますか。

(事務局) 教育委員会としては中学校までです。

(町長) 不登校の原因を特定するのはすごく難しいと思いますが、「いじめ」が0名というのは不自然に感じます。荒っぽく考えると、東浦町では小学校でいじめの件数が少なく、不登校が多いのは、いじめと認知されないまま不登校になってしまっているケースがあるのではないのでしょうか。

(事務局) いじめが少なく不登校が多いことをどう捉えるかということは、自分も課題と感じていることです。子どもたちをつぶさに見て実態を捉えていく必要があります。

いじめというものは、認知されたら、解消まで継続して指導していきます。なので、いじめの原因が0名なのは、重大事案になる前に不登校になったと言えます。

(教育長) 私は、昭和60年頃、初めて不登校児童を担任しました。その児童は前校でいじめに遭い、転校してきました。転校してからもほとんど登校することができず、もはや対人恐怖症といえるほどでした。不登校は病気ではないと言いますが、発達障害を抱えている等複雑な要素が絡み合っている場合もあるため、ひとくくりにせず、個別のケースで考えていかなければなりません。

(教育委員) いじめに関するアンケートは無記名ですか。

(事務局) 記名、無記名の両方を行う学校が多いです。

(教育委員) 不登校については、昨年から引き続きというケースがあると思いますが、いじめも継続するものなのでしょうか。いじめについて先生方がどの程度理解し、ケアしているのか教えてください。

また、不登校は定義があるということでしたが、実際の出席具合はどうなのか、そして町内でも学校によって差があるのかを教えてください。

(事務局) 現在いじめについては、認知された場合、教育委員会にいじめを受けた者といじめた者の氏名及び誰がどのような指導をしたかが報告されます。いじめ解消の定義もあり、「いじめ認知から3カ月間は解消としない、いじめられたとされる本人及び保護者の承諾を得て解消とする」となっています。本日いじめが認知されたとすると、3カ月の間に学年が変わり、クラス替え等で原因が取り除かれたとしても、解消とはなりません。

不登校については、前年度から継続している場合、出席日数はゼロに近いです。

児童生徒数の多い学校は、少ない学校と比較して不登校児童生徒の数も当然多いですが、学年で見えていくと、ある学校のある学年は多い等一概には言えません。

(町長) 不登校児童生徒の学力はどうですか。

(事務局) 学校のテストに限って言うと、多くは高くありません。

(町長) アンケートについて、記名と無記名で内容が同じなのですか。

(事務局) 確認します。

(アンケートの内容は各学校それぞれですが、無記名でのいじめに関するアンケートの内容は、記名での内容を包含している学

校が多く見受けられます。無記名でのアンケートは、いじめについてより具体的な質問となっています。)

(町 長) 不登校の学力不振についてですが、知的に遅れがある場合、学校自体がいやでなくても、不登校になる場合もあると思います。

(事 務 局) 各学校に1名特別支援コーディネーターがおり、保護者の要望と現状を把握しながら、特別支援学級での支援の方が伸びると思われる児童生徒について、普通学級から特別支援学級に移行するケースもあります。

(教 育 委 員) 心の相談ができる相手として養護教諭がいますが、保健室登校という形態をとっている児童生徒はどのくらいいますか。

(事 務 局) 小学校で2名程度把握しています。

(教 育 長) 保健室というのは、怪我をした子や養護教諭と話をしにくる子等たくさんの子どもたちがやってきます。そんな時に、不登校の子が常にいるというのは、なかなか難しいのです。

(事 務 局) 東浦町においては心の健康相談員や生活支援員を多く配置していただいております。いじめ・不登校に関しては、予防や早期発見が肝要なので、アンケートや教育相談、若あゆ日記等を通して、児童生徒の様子をつかもうとしています。ですが、担任や養護教諭は本来業務もあり、なかなか全てをフォローすることはできません。そういった中で、より多くの人目で見ること、様々な角度から情報が入り、解決につながることもあると思います。現在の町の取り組みを維持、できれば拡充していただければと思います。

(教 育 委 員) アンケートが全てではありませんが、全国平均より件数が多いのは悲しいことです。

(町 長) 町の取り組みという話がありましたが、私も教育はモノより人がどれだけ関わるかで質が変わってくると思います。限りある予算ですので、基本的な方針を持ちながら、教育長とも話し合っていきたいと思います。

(町 長) 他にご意見やご質問等はございますか。

《意見なし》

(町 長) 以上で令和2年度第1回東浦町総合教育会議を終了いたします。

閉 会 午前10時25分

会議録作成者 教育委員会事務局